

基礎を整備して 花木のメッカリに

小合西部地区で構造改善事業

小合の西部地区は、全国的にも有名な花木の生産地ですが、今年からこの地区を対象に、構造改善事業が実施されています。

花木を生産している農家の育成をはかり、「花木基地」としての地位を一層高めるため各種の事業が計画されているほか、水稲作の方でも、経営規模の拡大をはかり、自立経営農家の育成を援助するため各種の施設が予定されています。



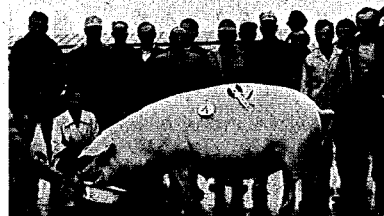
浦興野公会堂で開かれた構造改善事業の説明会

今年から四 年計画で

この構造改善事業は、今年度から五十六年度までの四年計画で、総事業費は、国庫補助金や公庫資金などを合わせて、約八億九千万円ほど見込まれています。

浦興野、出戸、子成場、四ツ興野、蔵曾根の五部落を合わせた小合西部地区は、市内の花木生産量の九割近くを占める「花木のメッカ」です。

この地区の農家戸数は百八十戸。そのうち専業農家は四十六戸で、いずれも花木生産農家となっており、近年、花木の生産意欲もおおいに盛りあがっています。また、この



トン嫌、農林大臣賞に

地区の農業生産額をみても、米と花木の割合は、昭和五十年には二十五対七十五となっており、花木への依存度はきわめて高いものがあります。

畑地への転換や かんがい施設の導入

事業の主なものはおおむね次のとおりです。

- ♡：水田を畑地に転換して花木用の圃場を、五十五年度までに十・三ヘクタール造成します。
- ♡：総延長十キロメートル以上に及ぶパイプラインを敷設して、信濃川の水を利用する「畑地かんがい施設」を導入します。
- ♡：花木の圃場に、「定地配

管施設」という、自動かん水施設を導入します。

♡：ガラス温室が五十八棟建設されます。

施設・機械の共同 利用組織の育成も

また水稲専門の自立経営農家の育成をはかる事業も行われます。

作業能率のアップをはかるために交換分合を行って農地を集約したり、近代的機械を導入して、その効率的利用と経営近代化をはかるため、施設・機械の共同利用組織を育成します。

また、経営規模を拡大するため、安心して水田の受委託ができるような環境の整備を行います。

お買物、ご用命は市内で

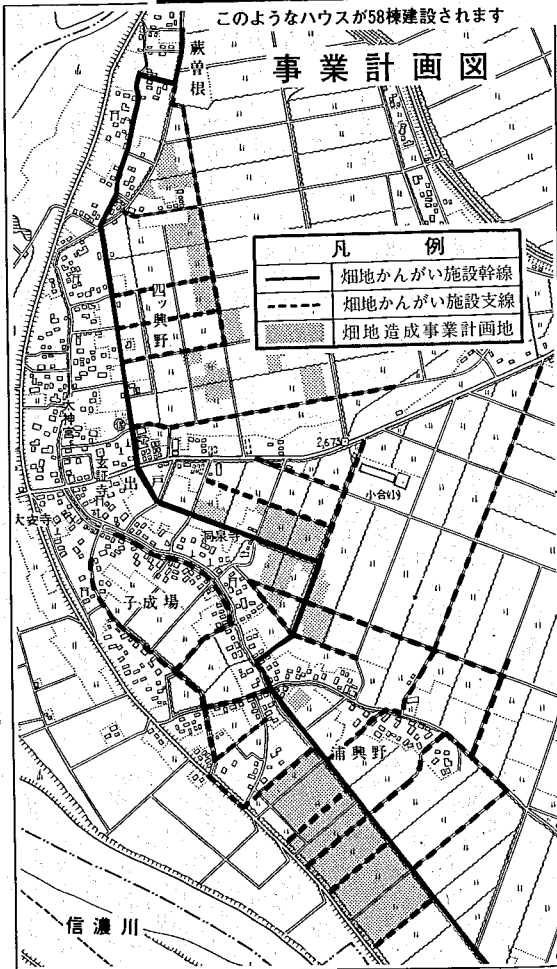
表 具
鈴木 一 心 ぞ
鈴木正義 本町3番 2-2035

冬のブーツ勢揃い
イザワでどうぞ!
靴のイザワ
*あるく楽しさを
お届けする—*



このようなハウスが58棟建設されます

事業計画図



米飯給食を月3回に 米の消費拡大に役

米の生産調整が打ち出された背景には、米の消費が減って、米が余ってしまうというこがいわれています。

昭和四十五年には、政府が抱える古米の在庫は七百二十万トンといわれていました。

その後、生産調整が実施されたため、古米の在庫は徐々に減ってまいりましたが、今年の大豊作で、六百五十万トンに近づくと予想されています。

生活の洋風化にともなって米の消費量は年々減ってきていますが、お米と日本人は

切っても切れない関係にあります。

一時、新聞などをにぎわせたライスヌードル（米の粉を使っうどん）や、玄米コーヒ、ワイン清酒など、何とかして米の消費拡大をはかろうと、さまざまな研究が行われています。

市でも、米の消費拡大をはかろうと、昭和五十一年から学校給食に米飯給食を導入してきました。最初は月二回でしたが、子どもたちからアンケートをとって米飯給食の回数

の九月から月三回に増やしています。

米飯給食は、パン給食と違って、食器の問題や副食の問題など、むずかしい点もありますが、子どもたちにはなかなか好評のようです。

そこで、より一層米の消費拡大をはかるために、週二回の米飯給食の導入は可能かどうか、検討を進めています。

計算によると、週二回の米飯給食を導入した場合、当市だけで、一年間に約七万キログラムの米の消費拡大ができることとなります。

お米は誤解
されています

「ごはんをたべると「ふとる」「高血圧になる」「頭が悪くなる」とよくいわれますが、ほんとうにそうなのでしょうか。

必要以上にカロリーをとれば、当然すべてふとるとは、何れでも、運動不足も原因のひとつになります。

また、お米の中には、血圧を高めるような成分はほとんど含まれていません。血圧が高くなるのは、塩辛いおかずのとり過ぎです。

同様に、脳の働きを妨げるものも含まれていません。居眠りや物忘れの大半は、過労、寝不足によるもので、原因は、ビタミン・ミネラルの不足がおこります。どうやら「お米犯人説」は誤りのようです。

むしろ欧米では、健康食としてお米がクロウズアップされているくらいです。

大切なカロリー源であるとともに、すぐれたタンパク源であるお米を見直してはいかがでしょうか。